

中野駅駅前広場のデザイン等整備方針の検討について

1. 検討の目的

中野駅地区の整備については、西側南北通路・橋上駅舎等整備事業が進められており、また各駅前広場について、新北口では都市計画道路の都市計画が決定し、南口、西口では土地区画整理事業が進められている。

中野駅を中心とした四象限の各駅前広場について、駅の整備や駅周辺まちづくりの進捗にあわせ、今後、各駅前広場を計画、設計する際の前提となる「デザイン等の整備方針」の検討を進める。

2. 既存の方針

現在の北口駅前広場整備にあたり、平成22年12月に「中野駅現北口駅前広場等の整備・景観形成等の方針」〈参考資料1〉を策定し、現北口駅前広場の景観整備の考え方や各駅前広場整備において景観形成上配慮すべき項目について整理している。

各駅前広場の整備内容については、中野駅地区整備基本計画（平成30年11月改定）〈参考資料2〉に必要な交通施設や歩行者・車両動線等を示している。

3. 検討内容

1) 検討範囲〈別紙1〉

新北口駅前広場、西口広場、南口駅前広場及び広場をつなぐ中野駅南北自由通路とし、既存の現北口駅前広場整備内容と整合を図る。

2) 検討内容

- ・各駅前広場のデザインコンセプト、交通施設の計画を踏まえた空間構成（にぎわい・みどり空間・滞留空間など）の考え方
- ・景観形成上配慮すべき項目（色彩材質・サイン計画・照明・植栽・シェルター・フアニチャーなど）の再整理

4. 検討体制

学識経験者、東京都第三建設事務所、区で検討会を構成する。

5. 検討スケジュール（案）

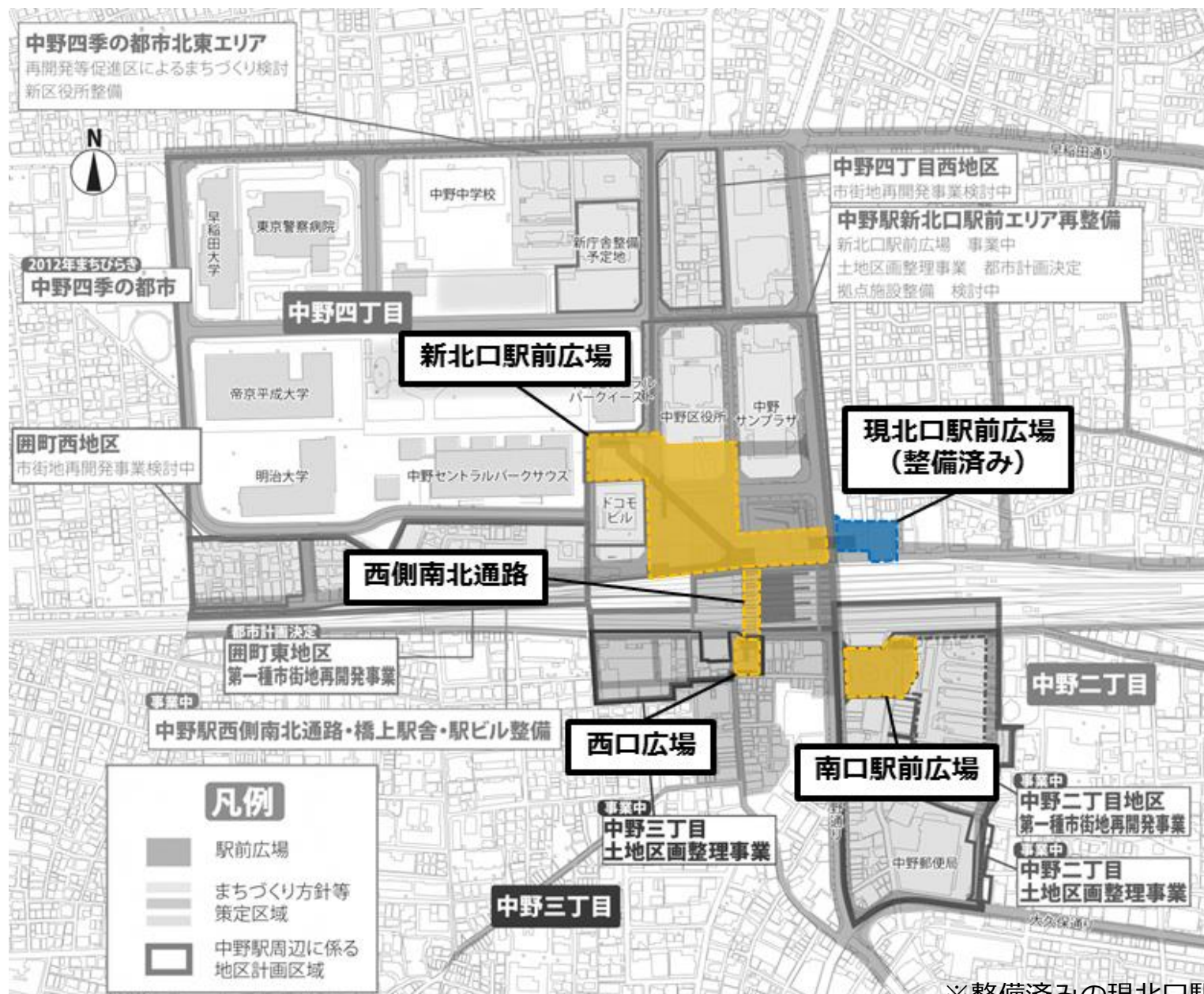
令和元年（2019年）10月	第1回デザイン等整備方針検討会開催
令和元年度（2019年度）	検討会を適宜開催、デザイン等整備方針（素案）の作成
令和2年度（2020年度）	区民意見交換会の実施
	デザイン等整備方針（案）の作成、決定

6. その他

各駅前広場の整備スケジュールは〈別紙2〉のとおり想定している。

検討範囲

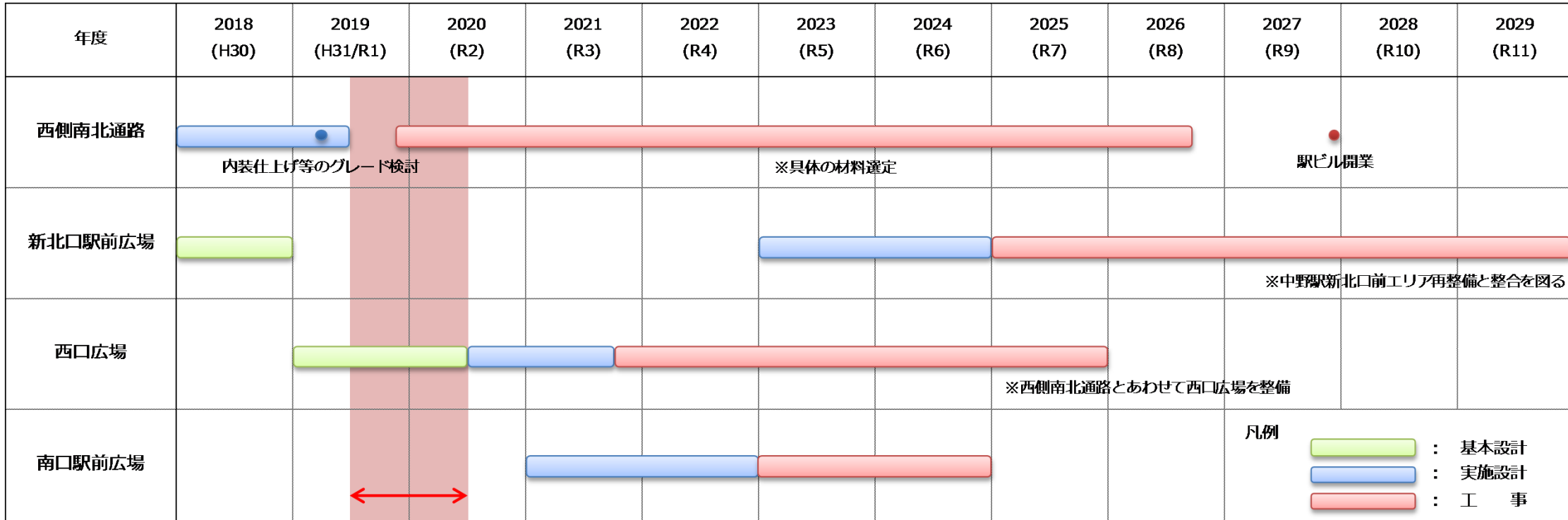
- ・新北口駅前広場、西口広場、南口駅前広場、西側南北通路



※整備済みの現北口駅前広場デザイン等と整合を図る

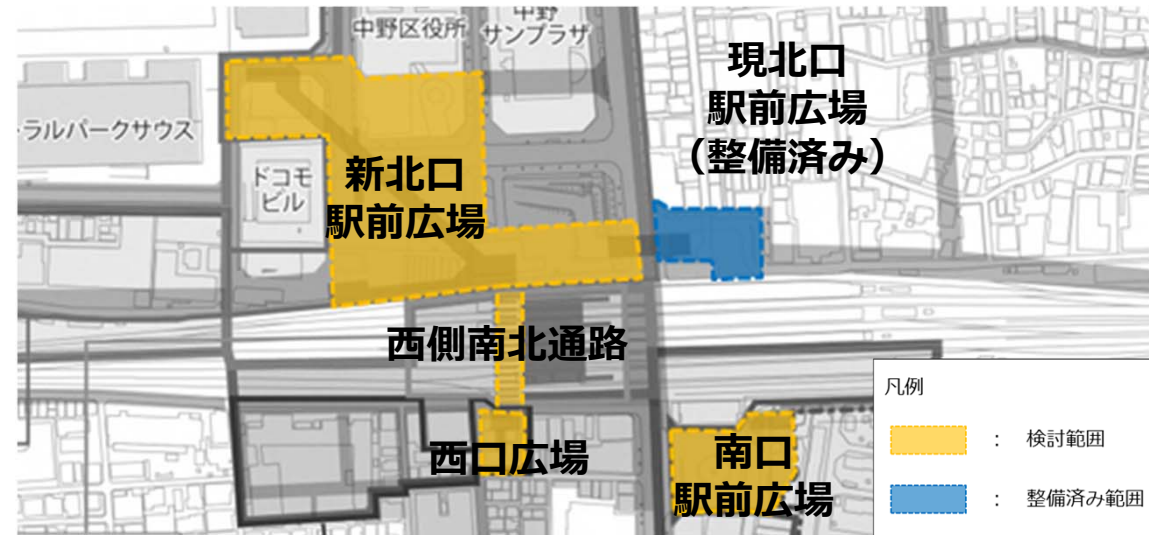
各駅前広場の整備スケジュール

※現時点での想定スケジュールであり、今後、事業の進捗状況等により変更が生じる可能性があります。



駅前広場のデザイン等
整備方針検討期間

2019～2020年度で駅前広場のデザイン等整備方針を策定し、今後、西口広場・南口駅前広場・新北口駅前広場の実施設計に反映する。



中野駅現北口駅前広場等の整備・景観形成等の方針

平成 2 2 年 1 2 月策定

1. 拠点的位置づけと上位計画の整理

駅前広場はまちと駅をつなぐ結節点である。

中野駅駅前広場の景観検討の前提条件整理として、まちづくりの視点から中野駅周辺地区及び中野駅地区の位置づけを上位計画から整理し、駅前広場の景観形成のポイントを抽出する。

【中野駅周辺地区の拠点的位置づけの整理】

○中野駅周辺地区（中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.2）

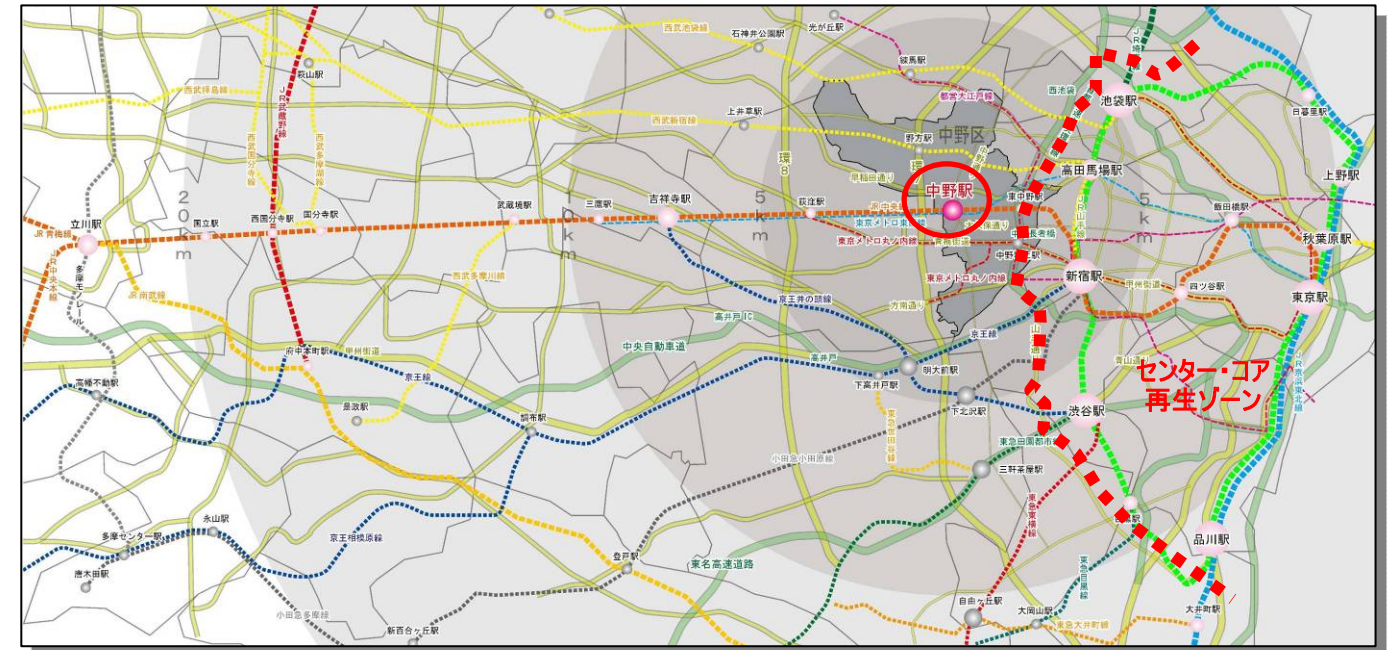
センターコア再生ゾーンと多摩方面をつなぎ自ら集客・発信する東京の新たな活動拠点

○中野駅地区（中野区都市計画マスタープラン）

周辺の4つのゾーン（中野二～五丁目ゾーン）をつなぎ核となり中野区の玄関口となる広域的な交流拠点

景観形成のポイント1

- 中野のもつ多様性・ポテンシャルを活かした新たなまちづくりと一体となった活動拠点の形成
- 中野の顔となる、広域的交流拠点にふさわしい景観形成



【上位計画の整理】

○都の上位計画

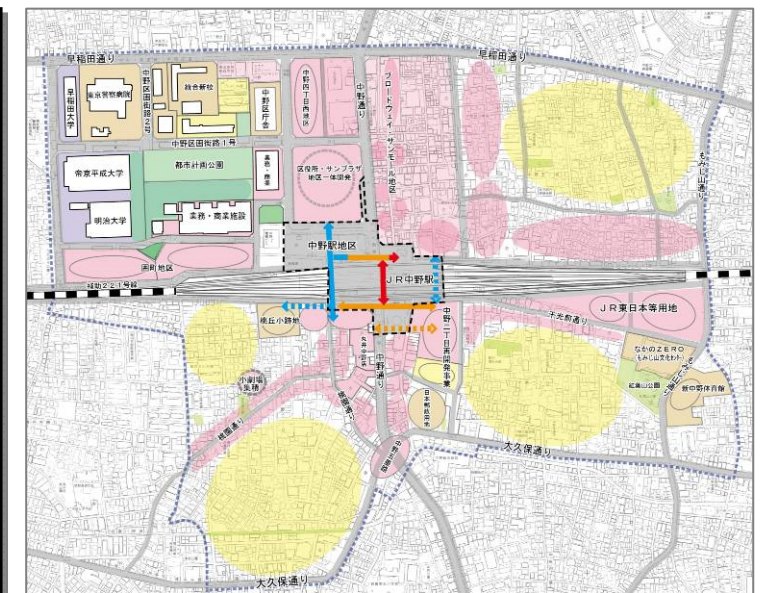
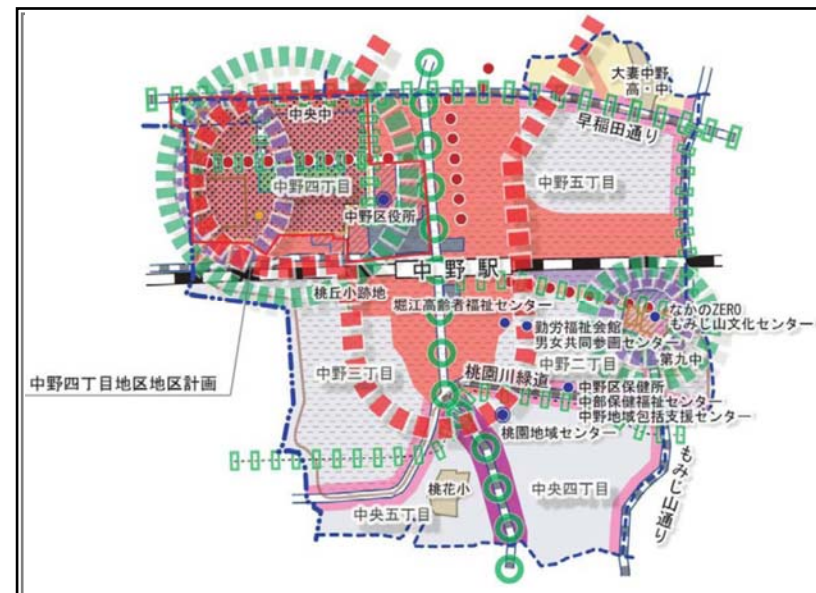
- 東京都の新しい都市づくりビジョン（H21.7）
- 都市計画区域マスタープラン（H20.3）
- 都市再開発の方針（H21.3）
- 住宅市街地の開発整備の方針（H21.3）
- 東京都景観計画（H20.4）

○区の上位計画

- 中野区基本構想（H22.2）
- 新しい中野をつくる10ヶ年計画（H22.3）
- 中野区都市計画マスタープラン（H21.4）
- 中野区交通バリアフリー整備構想（H17.8）
- 中野区みどりの基本計画（H21.8）

【中野駅周辺の上位計画の整理】

- 中野区都市計画マスタープランの地域別構想におけるまちづくり方針
- 中野駅周辺まちづくり計画（H17.5）
- 中野区交通バリアフリー整備構想における地区別整備構想（H17.8）
- 中野駅周辺まちづくりガイドライン 2007（H19.3）
- 警察大学校等跡地地区景観形成ガイドライン（H21.8）
- 中野区みどりの基本計画における地域別緑化推進の方針（H21.8）
- 中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.1（H18.12）/Ver.2（H21.10）
- 中野駅地区整備構想（H21.10）
- 中野駅地区整備基本計画（H22.3）



景観形成のポイント2

- 賑わいを高め、交流を促進する景観形成
- みどりの拠点づくりと環境負荷低減に配慮した景観形成
- すべての人にやさしいユニバーサルデザインに配慮した景観形成

2. 中野駅地区の景観形成の基本方針・コンセプト

位置づけ・上位計画の整理、地域特性の整理を踏まえて、中野駅地区と各駅前広場の景観形成の基本方針、コンセプトを定める。

【景観形成の基本方針】

- 地域特性を活かした個性あるシンボル景観形成
- 中野駅周辺の回遊性を促し4つの広場相互の賑わいをつなげる景観形成
- 周辺のみどりの軸の受けとなる、みどりの拠点・みどりのネットワーク形成によるうるおい溢れる景観形成
- だれもが安心して行き交い、過ごすことができるユニバーサルデザインの景観形成

【中野駅地区の景観形成コンセプト】

賑わいの重なりをつなげるみどりの活力創出拠点

中野駅を中心とした4つの駅前広場の多様な個性による重層的な賑わい空間を、みどりのネットワークでつなげることで、新たな都市活動をはぐくみ、東京の新たな活力を生み出す「顔」づくりを実現する。

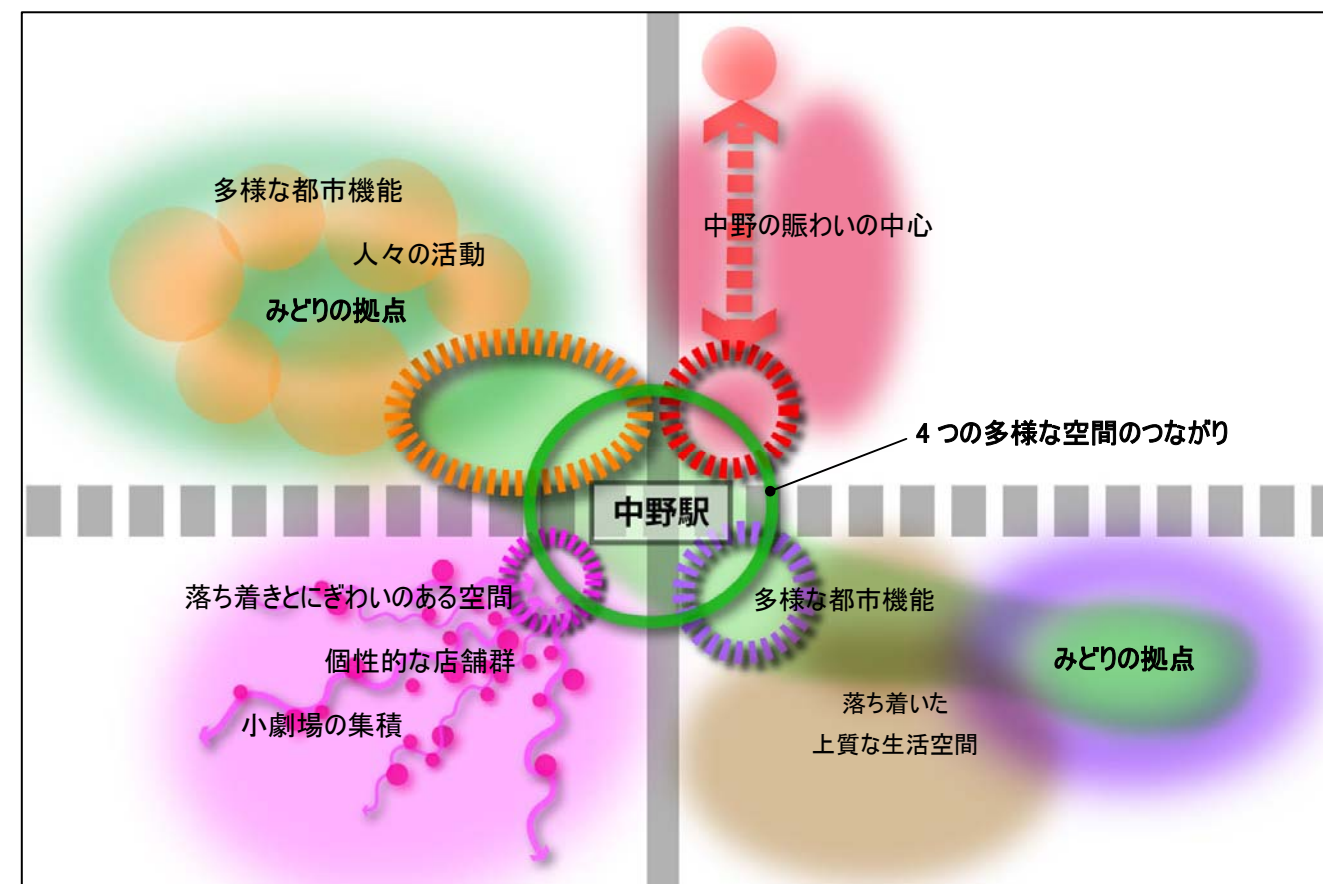
中野駅地区の景観コンセプト図

中野四丁目地区

- 多様な都市機能の集積による新たな中野の中心として、「みどりの拠点」である中野四丁目の都市公園をはじめ、各方面へ人々の活動をつなげていく総合交通 Hub となるシンボリックでみどり豊かな拠点空間を形成する。

中野三丁目地区

- 個性的な店舗群を活かしながら、新たな商業・文化拠点と連動した、落ち着きとにぎわいある空間を形成する。



中野五丁目地区

- 中野の賑わいの中心として、サンモール・ブロードウェイと連動した「交流拠点」により、新たな賑わい空間を形成する。

中野二丁目地区

- 新北口駅前広場と、紅葉山公園のみどりをつなぎ、文化拠点である「なかのZERO」や、落ち着いた上質な生活空間と連動した、みどりあふれる都市的な交流拠点空間を形成する。

3. 現北口駅前広場の景観整備の考え方

中野駅地区と各駅前広場の景観形成の基本方針等を踏まえて、現北口駅前広場の景観整備の考え方を定める。

○中野らしい賑わい創出拠点空間を形成する。

- ・多様な賑わいの創出拠点となる、利用形態に応じた広場空間の整備
- ・各空間の賑わいがにじみだす、一体性ある広場空間の整備

【利用者属性】若者、学生、通勤客、観光客、買物客、居住者

【広場利用形態】待ち合わせ、休憩、交流

【空間構成】

○賑わい軸

- ・駅とサンモールをつなぐ主要歩行者空間を形成
- ・東西連絡路は両広場との連続性を感じられるようなデザインに配慮

○みどり空間

- ・広場外周部に既存の桜並木を保全配置、中野のシンボル景観を形成

○広場空間

- ・ゲート空間、賑わい空間としてまとまりとゆとりあるユニバーサルデザインに配慮した広場空間を形成

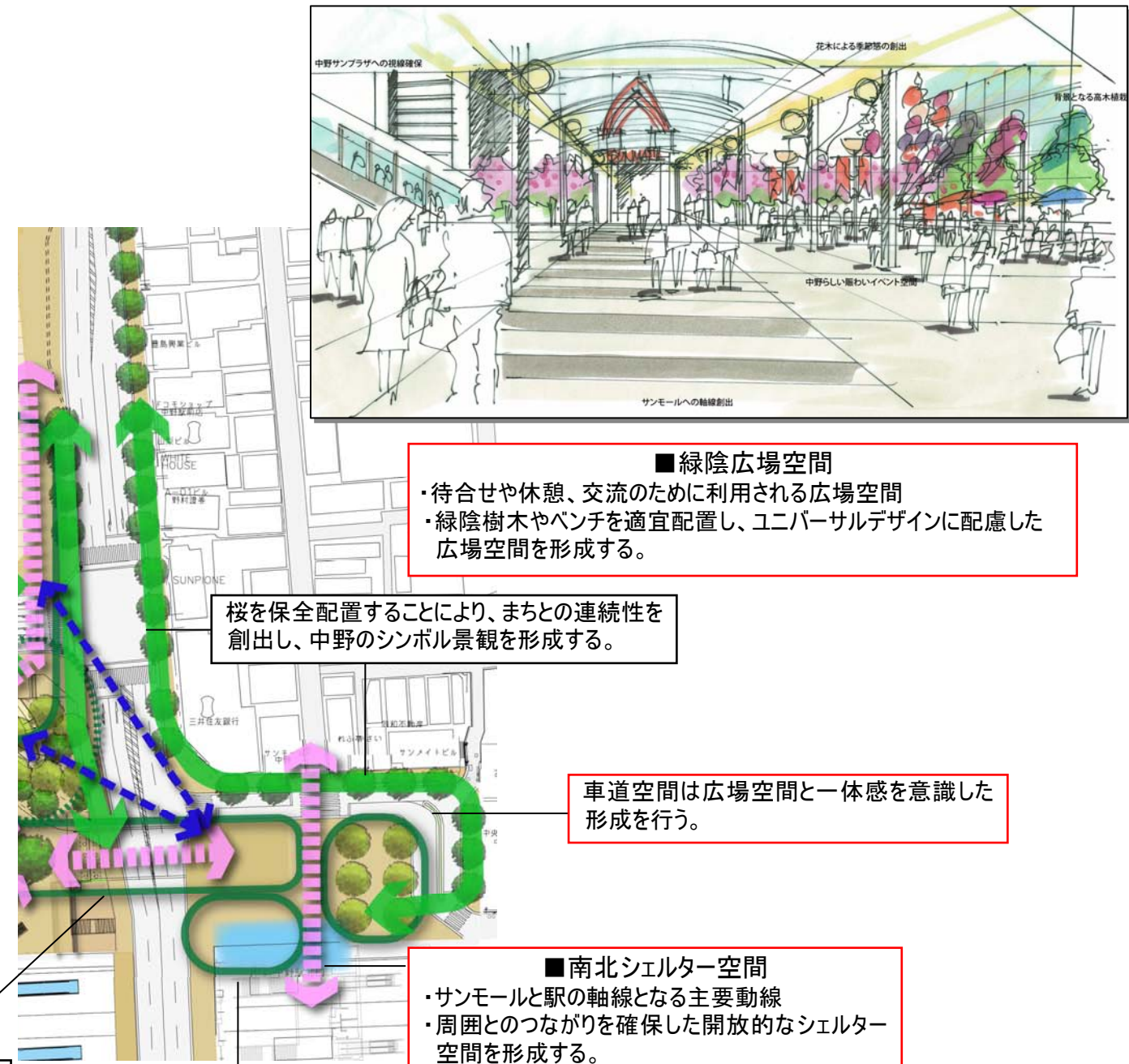
東西連絡路

- ・現北口広場と新北口広場をつなぐ主要動線
- ・相互の広場の連続性を感じられるように、広場デザイン要素との統一を図る。
- ・シェルターデザインは南北シェルター、新北口デッキと調和させる。
- ・現北口広場側は、多様な利用に配慮することで賑わい創出拠点を形成する。
- ・新北口広場との結節点は、シンボルツリーなどを配置し、すっきりとした待ち合わせゲート空間を形成する。
- ・現北口広場からサンプラザ方向への視線を意識した配置、デザインとする。

※シェルターとは：バス停の上屋や駅前広場に設けられる雨よけ等、道路空間等に設ける屋根類のことをいう

※シンボルツリーとは：その空間のシンボルとなるような、大きな樹木をいう

※ゲート空間とは：まちの入口を形成する空間をいう



4. 各駅前広場の整備にあたり景観形成上配慮すべき項目の整理

景観形成上配慮すべき項目	方針	各広場で特に留意すべき点			
		現北口広場	新北口広場	南口広場	中野三丁目広場空間
		現北口広場と新北口広場は、ゆるやかに変化するイメージ			
色彩	○ 舗装やストリートファニチュアなどを含む公共施設空間について、広場毎にまちの特性を反映した色彩イメージを検討する。	イメージ 賑わい、活気、人情味	イメージ シンボリック、都市的、機能的 緑を引き立たせる色合い	イメージ 都市的、機能的 落ち着いた上質な暮らし 緑を引き立たせる色合い	イメージ 温かみ、安心な居心地
歩行者案内サイン	○ 統一されたわかりやすいサイン計画とする。 ○ ユニバーサルデザインに配慮したサインとする。	—	—	—	—
照明	○ 広場毎に、まちの特性を反映した照明イメージとする。 ○ 安全・安心確保のために必要な機能照明と、賑わい演出に有効な演出照明を、空間の役割に応じて検討する。 ○ 環境配慮型の照明計画とする。	イメージ 賑わい、活気、人情味	イメージ シンボリック、都市的、機能的	イメージ 都市的、機能的 落ち着いた空間	イメージ 温かみ、隠れ家的
植栽	○ 中野駅地区で連続性ある植栽配置とする。 ○ 広場毎に、樹種や樹木配置の考え方を検討する。	○ 中野通りのみどりの軸と連続した広場のみどり ○ 既存のサクラ、緑陰樹木 ○ 広場空間を広く確保する為に、を活用する	○ シンボル空間としてのまとまったみどり ○ ゲート性のあるみどり ○ 中野通り、けやき通りをつなげるみどりの軸	○ ゲート性のあるみどり ○ 中野通りと駅前開発の広場をつなげるみどりの空間	○ 落ち着きとにぎわいを形成するみどり
シェルター	○ シンプルで連続性のあるデザインとする。	—	—	—	—
ストリートファニチュア	○ 広場毎に、まちの特性を反映したストリートファニチュアとする。 ○ ユニバーサルデザインに配慮したストリートファニチュアとする。 ○ 柵やボラードなどは連続性のあるデザインとする。 ○ シェルターデザインなど、他のデザイン要素との調和を図る。	—	○ 顔となる場所にはシンボリックでランドマーク性のあるストリートファニチュアを配置	○ 顔となる場所にはシンボリックでランドマーク性のあるストリートファニチュアを配置	—

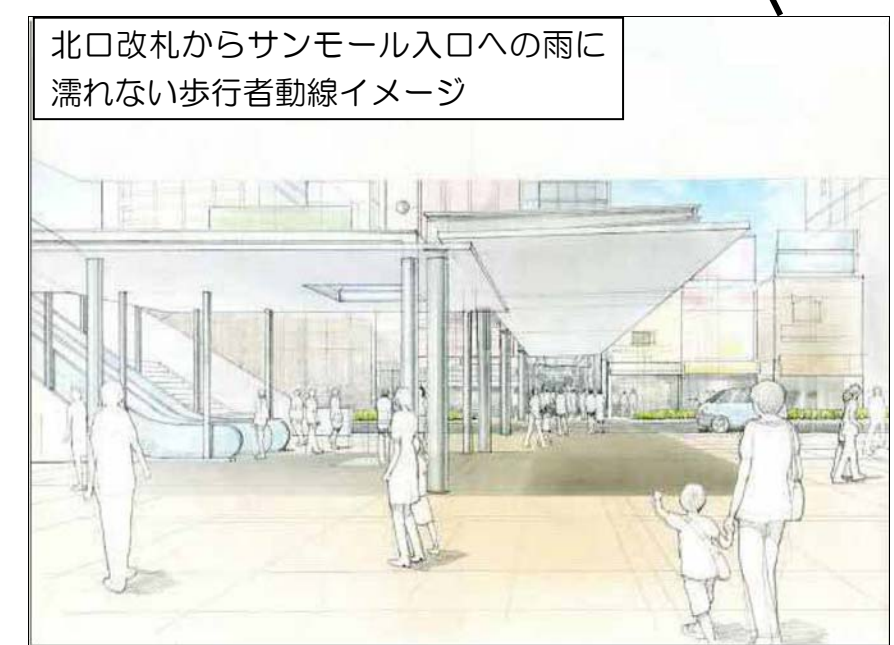
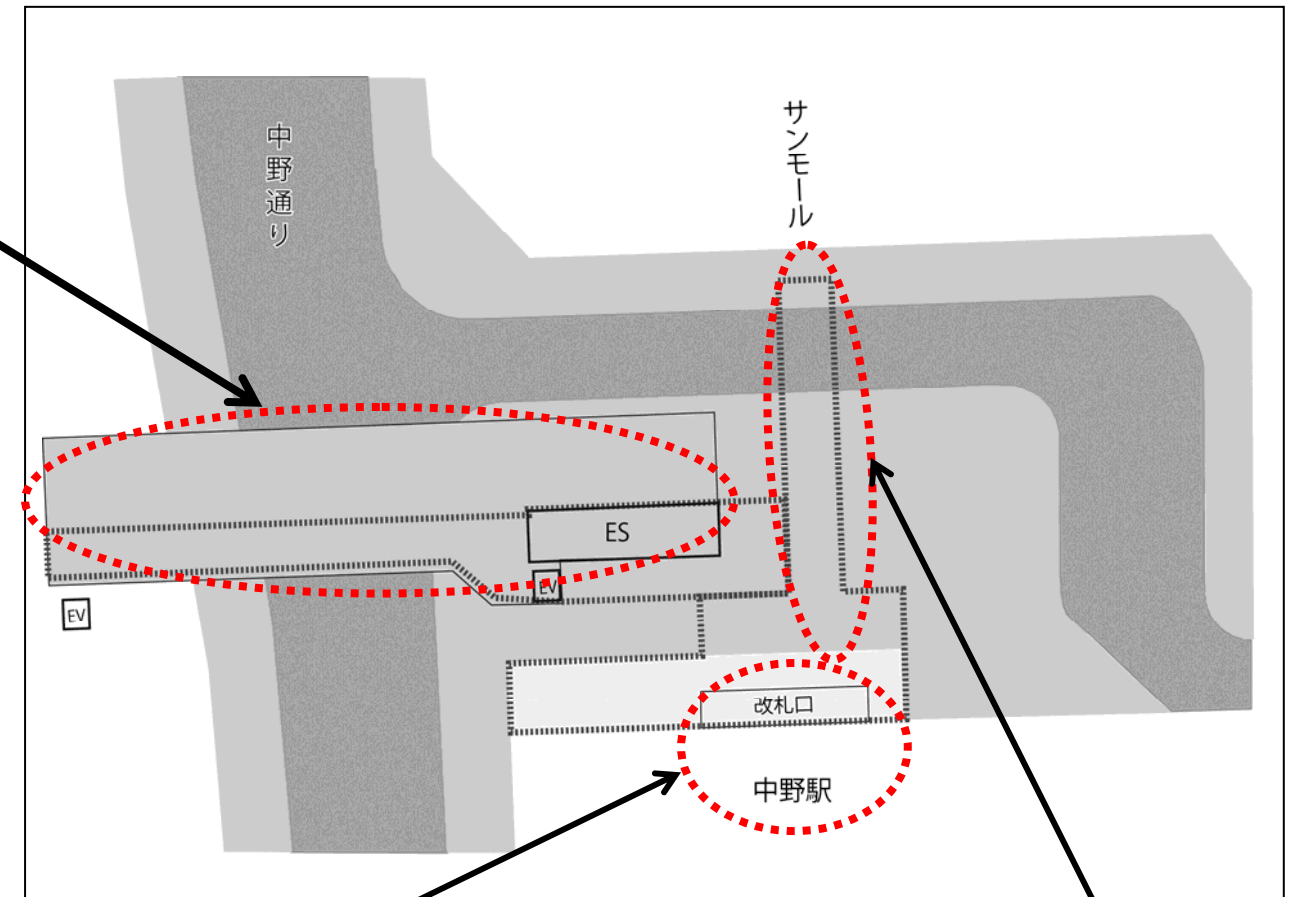
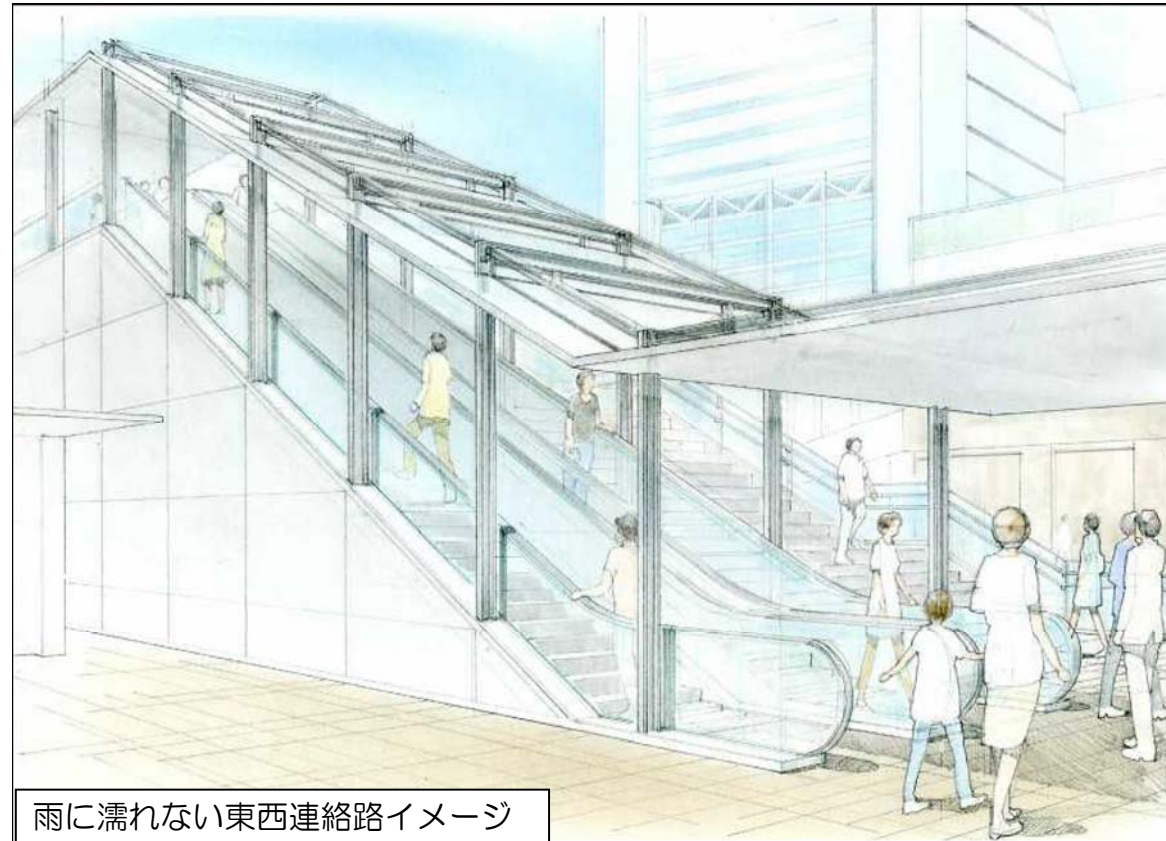
※ストリートファニチュアとは：道路上に置かれている備品の総称。街灯、車止め、案内板、彫刻、噴水、ベンチ、電話ボックス、バス停など、歩行者に快適さを提供するための設備をいう

※ボラードとは：道路や広場などに設置して自動車の進入を阻止したりする目的で設置される、地面から突き出した杭状の構造物をいう

※ツリーサークルとは：樹木の根元部分に設置する鋳鉄などでつくられた保護盤をいう。これを設置することで、樹木の周囲が歩行スペースとして有効に活用する事ができるようになる。

※ランドマーク性とは：地域の目印となり、これを象徴するシンボリックな空間や構造物としての性格をいう

5. 現北口駅前広場の施設整備イメージ



5. 整備内容

【①新北口駅前広場】

■交通施設（想定）

- ・バスバース 乗車8、降車2
- ・タクシー 乗車1、降車1
プール 約40台
- ・一般車（身障者兼） 乗降2
- * 車両の出入口は、中野通りへの自動車交通の集中を回避する観点から、広場西側に確保する。

【②現北口駅前広場】

整備済

■交通施設

- ・一般車（身障者兼） 降車空間
- * 中野通りへの車両の出入口を一か所に絞り、コンパクトな交差点形状とすることで、交差点間の滞留長を確保する。
- * 広場内の通過車両を抑制することで、快適な歩行者空間を形成する。

【駐車場】

■自動車駐車場

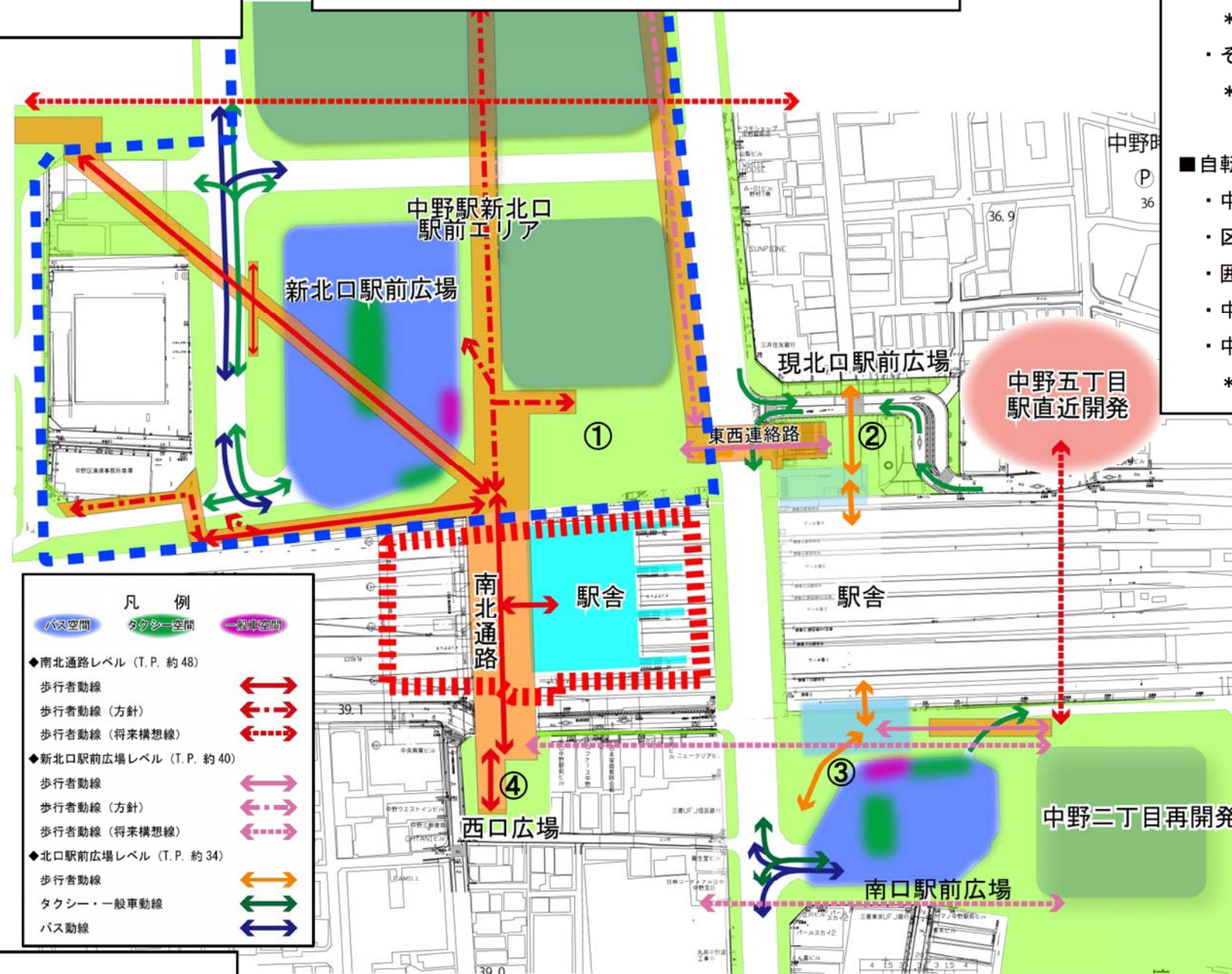
- ・都市計画駐車場 約70台
- * 区役所・サンプラザ地区に配置する。
- * 台数は中野区駐車場整備計画（平成29年9月）による。

■自動二輪駐車場 約250台

- ・都市計画駐車場 約80台
- * 台数は中野区駐車場整備計画（平成29年9月）による。
- ・その他 約170台
- * 駅周辺のまちづくりにあわせて配置を検討する。

■自転車駐車場 約6,000台

- ・中野四季の森公園地下自転車駐車場 約1,500台
- ・区役所・サンプラザ地区再整備自転車駐車場（仮称）約1,500台
- ・困町地区自転車駐車場（仮称） 約1,500台
- ・中野二丁目自転車駐車場（仮称） 約500台
- ・中野三丁目自転車駐車場（仮称） 約1,000台
- * 上記は中野駅周辺自転車駐車場整備計画（平成29年1月）による



【④西口広場】

- * 南北通路、西口改札を受ける安全で快適な歩行者系駅前広場を整備する。

【③南口駅前広場】

■交通施設（想定）

- ・バスバース 乗車4、降車1
- ・タクシー 乗車1、降車1
プール 10~15台
- ・一般車（身障者兼） 乗降2
- * 中野通りへの車両の出入口を南側の一か所に絞り、コンパクトな交差点形状とすることで、交差点間の滞留長を確保するとともに、改札前に十分な歩行者空間を設ける。